

TOYOBO NOW

第163期 中間報告書 2020年4月1日~2020年9月30日



CONTENTS

株主のみなさまへ

セグメント別業績の概要

TOPICS

- 超複屈折ポリエステルフィルム
“コスモシャインSRF”生産体制を強化
- 使用済みプラスチックの再資源化事業に取り組む新会社
「株式会社アールプラスジャパン」設立
- 最短65分以内で抽出~検出・測定可能な
「新型コロナウイルス検出キット」を開発

決算ハイライト

会社の概要・株式の状況

株主メモ

Olyester Origami

この作品には当社の折れるポリエステルフィルム“オリエステル”を使った、“オリエステルおりがみ”が使用されています。

“オリエステルおりがみ”はこちらのHPで詳しくご紹介しています。

<https://origami.olyester.net/>



株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

はじめに、本年9月27日、当社犬山工場で発生しました火災事故により、亡くなられたお二人のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族に対し心よりお悔やみ申し上げます。

また、株主はじめ多くの方々に、多大なるご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを心からお詫び申し上げます。

事故の原因につきましては、関係省庁による調査が行われているところですが、当社では「事故調査委員会」を設置し、原因究明に全力を挙げて取り組んでおります。

当社は、一昨年の敦賀事業所での火災事故を踏まえ、二度と火災事故を起こさないという決意のもと、外部専門家の診断・指導等も受けながら防災対策を進めてまいりましたが、大切な従業員の命を失う大事故を起こしてしまいました。「安全」「防災」を当社グループの最優先課題として、これまでの保安防災活動に欠けていたこと、不足していたこと等を徹底的に究明するとともに、信頼回復に向け全社一丸となって再発防止と安全管理に努めてまいります。

上半期業績について

当第2四半期連結累計期間（以下、「当期間」といいます。）における当社グループを取り巻く事業環境は、中国では新型コロナウイルス感染症が収束し景気回復が進む一方、国内では感染症拡大は抑えられつつあるものの景気の回復スピードは遅く、米国・欧州では感染再拡大の兆しがみられ、景気の先行きは不透明な状況が続いています。

こうした事業環境において、「フィルム・機能マテリアル」では、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”が、強い需要に牽引され販売を伸ばしました。「モビリティ」では、世界的な自動車減産の影響を受け、エンジニアリングプラスチック、エアバッグ用基布が苦戦しました。「生活・環境」では、消費の冷え込み、需要減退により、衣料繊維、スーパー繊維が低調でした。「ライフサイ

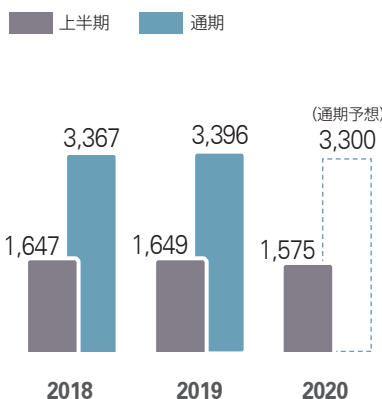
代表取締役社長

梅原誠慈

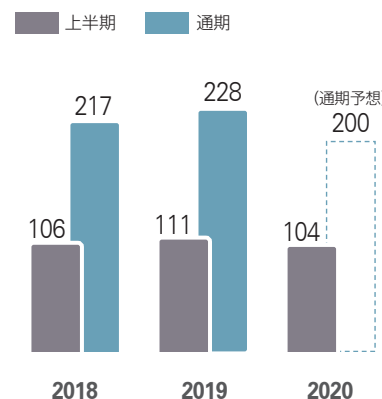


決算ハイライト

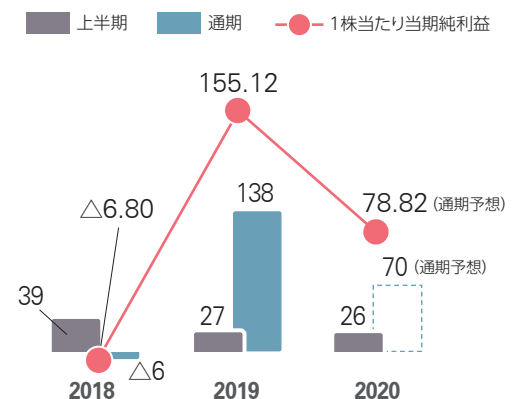
売上高 (億円)



営業利益 (億円)



親会社株主に帰属する当期純利益(億円)・1株当たり当期純利益(円)



エンスJでは、新型コロナウイルスのPCR検査用試薬、検出キットなどが販売を伸ばしましたが、医薬品製造受託事業が苦戦しました。

以上の結果、当期間の売上高は前年同期比74億円(4.5%)減の1,575億円となり、営業利益は同7億円(6.2%)減の104億円、経常利益は31億円(34.6%)減の59億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同0億円(0.8%)減の26億円となりました。

通期業績の見通し

通期業績予想につきましては、第1四半期決算発表時(本年8月6日)に公表した数値から変更しておりません。売上高は3,300億円(前期比96億円減)、営業利益は200億円(前期比28億円減)、経常利益は140億円(前期比40億円減)、親会社株主に帰属する当期純利益は70億円(前期比68億円減)を予想しています。なお、火災が発生した犬山工場では、9月30日より一部の製品を除き出荷を再開するとともに、関係省庁より稼働の許可が得られた生産

設備については安全確認を行ったうえで順次再稼働させています。今後、当該火災事故等が通期業績に重大な影響を及ぼすことが判明した場合は、すみやかに公表いたします。

配当について

当社は、安定的な配当の継続を基本としつつ、持続性のある利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを総合的に勘案のうえ、総還元性向30%を目安として、自己株式の取得を含めた株主還元を行ってまいります。

上記方針を踏まえ、中間配当につきましては見送らせていただきましたが、期末配当は、現時点において1株当たり40円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

超複屈折ポリエステルフィルム“コスモシャインSRF”生産体制を強化

～ 犬山工場に製造設備を新設、量産を開始 ～

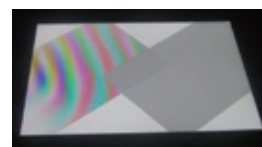


犬山工場に新設した製造設備

当社は、犬山工場(愛知県犬山市)に、液晶ディスプレイ用の超複屈折ポリエステルフィルム“コスモシャインSRF”製造設備を新設しました。

ディスプレイの大型化やベゼルレス化*が進む中、優れた耐水性や耐久性をもつ本製品は、ゆがみにくい点などが高く評価され、採用が拡大しています。

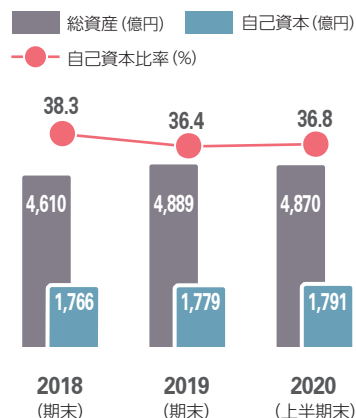
旺盛な需要に対応するため、当社は一昨年より、犬山工場で専用の製造設備の建設を進めてきましたが、このほど竣工し、7月より量産を開始しました。これにより、本製品の生産能力は従来の1.5倍となりました。



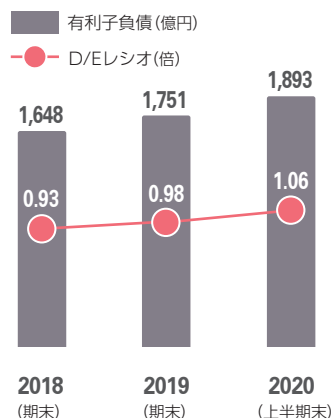
「超複屈折」という発想により虹ムラを解消した液晶偏光子保護フィルム

*ディスプレイの外枠(ベゼル)の幅が狭くなる、あるいは無くなること

総資産・自己資本・自己資本比率



有利子負債・D/Eレシオ





セグメント別業績の概要

Films & Functional Materials



フィルム・機能マテリアル

フィルム事業では、包装用フィルムは、新型コロナウイルス感染症拡大による業務用製品等の販売減少を乗り越え特需がカバーしました。また、世の中の環境意識の高まりを背景に、環境対応製品が販売を伸ばしました。工業用フィルムは、セラミックコンデンサ用離型フィルム“コスモピール”が車載用途で生産調整の影響を受けましたが、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”は強い需要に牽引され、順調に販売を伸ばしました。

機能マテリアル事業では、工業用接着剤“バイロン”、ポリオレフィン用接着剤付与剤“ハードレン”は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、自動車用途、電材用途などが低調でした。

売上高 **738** 億円 **23.1%** 増 (前年同期比) 営業利益 **87** 億円

Lifestyle & Environmental



生活・環境

環境ソリューション事業では、溶剤を回収するVOC処理装置・エレメントは新型コロナウイルス感染症拡大以前の受注残もあり堅調に推移しました。一方、海水淡水化用逆浸透膜は、交換膜の受注時期が当連結会計年度後半にシフトしたことにより販売が減少しました。

不織布事業では、長繊維不織布スパンボンドは、自動車用途を中心に苦戦し、機能フィルターは、空気洗浄機やマスク向けの販売が堅調も、事務機器向けの販売が低調でした。

繊維機能材事業では、スーパー繊維は、“ツヌーガ”が世界各地での工場稼働が低下したことにより耐切削手袋の販売が減少し、“イザナス”が国内のロープ用途の需要減退の影響を受けました。一方、ポリエステル短繊維は、衛生材料用途で販売を伸ばし、機能性クッション材“プレスエアー”は寝装用途を中心に堅調でした。

衣料繊維事業では、スポーツ、インナー、スーツ用途の店頭販売などが不振で、受注が大幅に減少しました。

売上高 **502** 億円 **21.4%** 減 (前年同期比) 営業利益 **18** 億円

(営業利益 消去 全社15億円。なお、報告セグメントの区分を変更しています。前年同期との比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて算出しています。)

Mobility



モビリティ

エンジニアリングプラスチックは、中国、米国を中心に、回復傾向はみられたものの、前年同期に比べると、販売は減少しました。エアバッグ用基布は、タイ、米国を中心に販売が落ち込みました。

売上高 **150** 億円 **32.3%** 減 (前年同期比) 営業利益 **▲13** 億円

Life Science



ライフサイエンス

バイオ事業では、バイオケミカルは生化学診断薬用原料、診断システムは一般検査の需要が減少しましたが、バイオテクサポートは、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、PCR関連の検査用原料や研究用試薬の販売が大きく伸びました。

医薬事業は、操業が一部停止した影響により苦戦しました。

メディカル事業では、医療機器は、神経再生誘導チューブ“ナーブリッジ”は前年度並みの販売となり、医用膜は、血液透析膜、血液透析濾過膜の販売が堅調に推移しました。

売上高 **124** 億円 **1.1%** 減 (前年同期比) 営業利益 **16** 億円

Real Estate & Others



不動産・その他

不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

売上高 **62** 億円 **5.0%** 減 (前年同期比) 営業利益 **10** 億円

四半期連結貸借対照表の要旨 (単位:百万円)

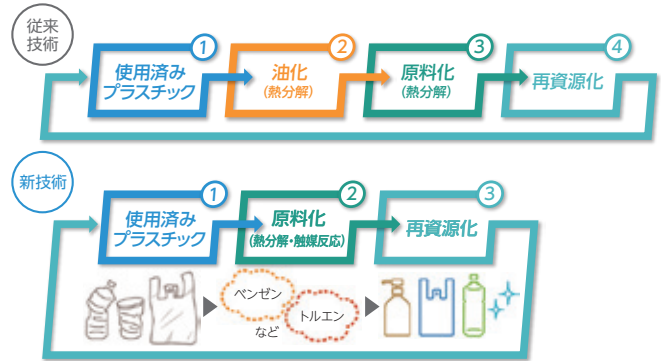
科目	当上半期末 (2020年9月30日現在)	前期末 (2020年3月31日現在)	科目	当上半期末 (2020年9月30日現在)	前期末 (2020年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	199,348	206,416	流動負債	119,047	122,321
固定資産	287,634	282,458	固定負債	184,436	183,916
有形固定資産	233,758	231,478	負債合計	303,483	306,238
無形固定資産	4,600	4,641	純資産の部		
投資その他の資産	49,275	46,339	株主資本	144,687	145,509
資産合計	486,982	488,874	その他の包括利益累計額	34,386	32,381
			非支配株主持分	4,427	4,746
			純資産合計	183,499	182,636
			負債・純資産合計	486,982	488,874

使用済みプラスチックの再資源化事業に取り組む新会社「株式会社アールプラスジャパン」設立

～ 業界を超えた12社による共同出資会社 ～

当社を含む、プラスチックのバリューチェーンを構成する12社*1は、使用済みプラスチックの再資源化事業に取り組む共同出資会社、株式会社アールプラスジャパン(本社:東京都港区)を設立し、6月から事業を開始しました。

国内では、ペットボトル以外の使用済みプラスチックの多くが燃やされている*2とされています。この新会社が開発を進めるのは、プラスチックを直接原料(ベンゼン・トルエン・キシレン・エチレン・プロピレンなど)に戻す、環境負荷の少ないケミカルリサイクル*3の技術です。世界で共通となっているプラスチック課題解決に貢献すべく、回収プラスチックの選別処理、モノマー製造、ポリマー製造、包装容器製造、商社、飲料メーカーなど業界を超えた連携により、2027年の実用化をめざしていきます。



*1 サントリー-MONOZUKURIエキスパート(株)、レンゴー(株)、東洋製罐グループホールディングス(株)、J&T環境(株)、アサヒグループホールディングス(株)、岩谷産業(株)、大日本印刷(株)、凸版印刷(株)、(株)フジシール、北海製罐(株)、(株)吉野工業所および東洋紡(株)

*2 焼却時に発生する熱を回収し、発電や熱供給に活用するサーマルリカバリー(熱利用)を含む

*3 使用済みの資源をそのままではなく、化学反応により組成変換した後にリサイクルする

最短65分以内で抽出～検出・測定可能な「新型コロナウイルス検出キット」を開発

～ 治療薬・ワクチンなどの早期開発に貢献 ～

研究用試薬

当社は、最短65分以内で新型コロナウイルスの抽出と検出・測定が可能な新型コロナウイルス検出キット「SARS-CoV-2 Detection Kit」を開発し、本年4月より研究用試薬として販売を開始しました。

PCR法を用いた新型コロナウイルスの検出には、遺伝子の抽出から検出・測定まで2時間半以上を要するのが一般的でしたが、当社独自の遺伝子増幅酵素(特許出願中)により、最短65分以内の検出・測定を実現しました。

また、8月からは、検出感度に影響を及ぼさず検体の使用量を増やすことができるよう、前処理液やPCR反応組成の性能を改良した「SARS-CoV-2 Detection Kit -Multi-」を販売しています。

当社は、今後、これらの製品を医療現場に広く普及させ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に貢献することをめざします。

なお、いずれのキットも研究用試薬であり、医薬品医療機器等法に基づく体外診断用医薬品としての承認、認証等を受けておりません。ただし、「臨床検体を用いた評価結果が取得された2019-nCoV遺伝子検査法について」(厚生労働省健康局結核感染症課 国立感染症研究所2020年8月18日版)に記載され、公的医療保険の適用対象となっております。



鼻咽頭ぬぐい液
唾液 など



抽出 (30分～2時間*1)	PCR (約2時間)
従来法	抽出 (30分～2時間*1) + PCR (約2時間)
当社製品	12分～ 最短51分*2

*1: 検体数により時間が長くなります
*2: 検出装置により時間は前後します

四半期連結損益計算書の要旨 (単位:百万円)

科目	当上半期累計 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	157,507
売上原価	116,189
売上総利益	41,318
販売費及び一般管理費	30,898
営業利益	10,420
営業外収益	919
営業外費用	5,476
経常利益	5,862
特別利益	95
特別損失	2,006
税金等調整前四半期純利益	3,952
法人税等	1,599
四半期純利益	2,353
非支配株主に帰属する四半期純損失	289
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,642

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位:百万円)

科目	当上半期累計 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,394
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,955
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,341
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 10
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,770
現金及び現金同等物の期首残高	25,084
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	18
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,873

(記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。)

会社の概要・株式の状況 (2020年9月30日現在)

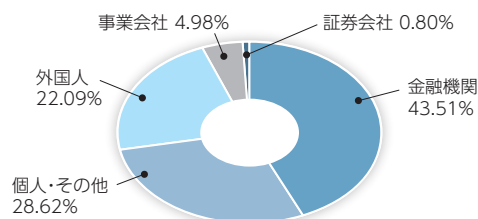
社名 東洋紡株式会社
 英文社名 TOYOBO CO., LTD.
 証券コード 3101
 創立 1882年(明治15年)5月3日
 設立 1914年(大正3年)6月26日
 資本金 51,730,003,166円
 本社 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
 (代表 06-6348-3111)
 東京支社 東京都中央区京橋一丁目17番10号
 名古屋支社 名古屋市西区市場木町390番地
 従業員数 連結 10,101名 単体 3,320名

役員

代表取締役社長 社長執行役員 榎原誠慈
 代表取締役 副社長執行役員 渡邊賢
 取締役 常務執行役員 竹内郁夫
 取締役 執行役員 大槻弘志
 取締役 執行役員 荒木良夫
 取締役 執行役員 白井正勝
 社外取締役 中村勝
 社外取締役 磯貝恭史
 社外取締役 桜木君枝
 社外取締役 播磨政明
 監査役(常勤) 永田種昭
 監査役(常勤) 飯塚康広
 社外監査役 竹中史郎
 社外監査役 杉本宏之

■ 発行可能株式総数 200,000,000株
 ■ 発行済株式の総数 89,048,792株
 (自己株式198,608株含む)
 ■ 株主数 57,590名

株式分布の状況(所有者別)



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,422	9.48
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,031	6.79
全国共済農業協同組合連合会	3,558	4.00
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	2,966	3.34
株式会社かんぽ生命保険	2,265	2.55
東洋紡従業員持株会	1,772	1.99
東友会	1,769	1.99
日本生命保険相互会社	1,750	1.97
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	1,623	1.83
JP MORGAN CHASE BANK 385781	1,505	1.69

(注)持株比率は、自己株式(198,608株)を控除して計算しています。

関係会社

	国内	海外	計
連結子会社	23	31	54
持分法適用会社	4	2	6
計	27	33	60

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 (期末の配当金受領株主確定日 3月31日)
 定時株主総会 6月に開催します。
 基準日 定時株主総会の基準日は3月31日です。
 その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。
 単元株式数 100株
 当社は、2017年10月1日をもって、単元株式数を
 1,000株から100株に変更しました。
 公告掲載ホームページアドレス <https://www.toyobo.co.jp>
 電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞
 に掲載します。
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および
 全国各支店で行っています。

各種手続のお申出先

- 住所変更、名義変更、配当金の受け取り方法のご指定、
 単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

区分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (上記、電話照会先をご参照ください。)

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元未満株式(1~99株)をお持ちの方へ

単元未満株式をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことにより、売却または100株におまとめいただくことができます。ぜひ、以下の制度をご利用ください。



単元未満株式の
買取を請求する。



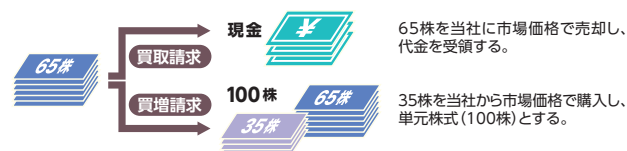
単元株式(100株)に
するため、不足する株数の
株式の売り渡しを請求する。

本報告書掲載のTOPICSにつきましては、2020年9月30日時点の情報です。

株主・投資家情報はこちら <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir.html>



(例)当社株式65株をお持ちの場合



お手続方法につきましては、上記のお申出先へお問合せください。

